

## シンポジウム 2-2

## チーム医療のためのシステム構築と医療安全

平井 有美

独立行政法人労働者健康福祉機構香川労災病院

(平成 23 年 3 月 17 日受付)

**要旨：**香川労災病院では、2004 年のオーダーエントリーシステム導入、2007 年の電子カルテ導入に際し、日常業務を円滑に遂行でき、医療者に配慮した電子クリティカルパスシステムの構築と改善に取り組んでいる。チーム医療を推進するためには患者を中心として互いのチーム間で情報共有を円滑に行うことが重要となる。当院の電子クリティカルパスはオーバービューを基本とし、様々な情報を得られるように設定しているが、その反面、画面をスクロールしなければ記録全体を閲覧できないという問題があった。そこで今回、チーム医療を推進するために「チームカルテ」「日めくり表示」の設定を行った。また、補完ツールとして電子クリティカルパスに文書類を添付する「関連ファイル」の設定を行った。これらにより、医療者間での情報共有、患者・家族とのインフォームド・コンセントの充実、スタッフ教育などが効率的に行えるようになった。クリティカルパスシステムを使いやすく改善していくことは医療の質向上だけでなく医療安全の向上にもつながる。これらの設定内容と実際の運用について報告した。

(日職災医誌, 59: 205—209, 2011)

## —キーワード—

チーム医療, 電子クリティカルパス, 情報共有, 医療安全

## はじめに

質の高い安心・安全な医療が求められ、医療のあり方が問われている中、チーム医療が注目を集めている。チーム医療を推進するためには患者を中心として互いのチーム間で情報共有を円滑に行うことが重要となる。チーム医療のキーワードは、「高度な専門性」「目的と情報の共有」「連携・補完」「標準化」「医療スタッフの役割拡大」であり<sup>1)</sup>、クリティカルパスの果たす役割は大きい。そこで今回、チーム医療を推進するために電子クリティカルパスのシステム構築に取り組んだので、その結果を報告する。

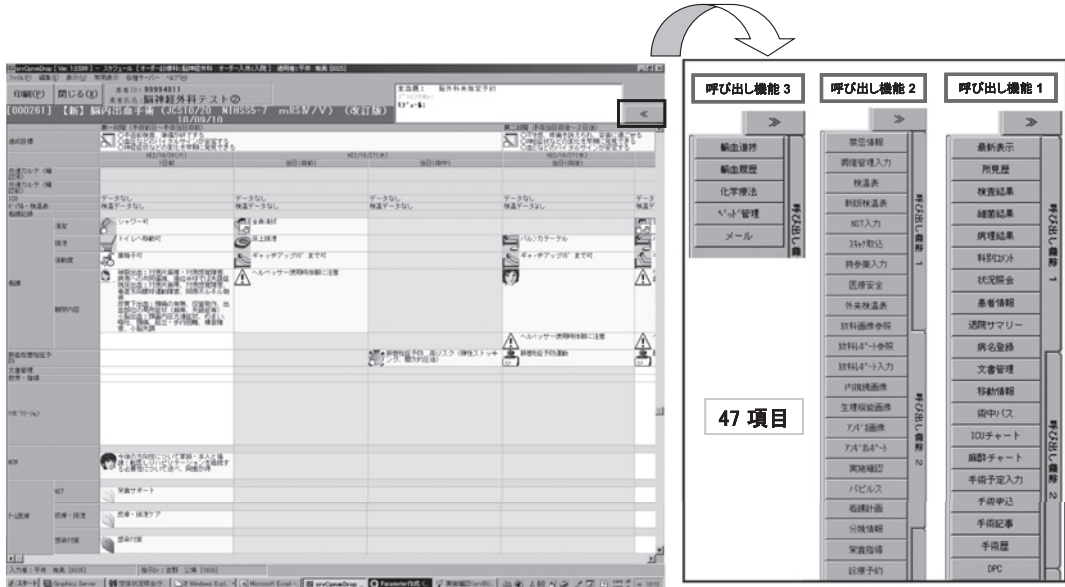
## 1. 香川労災病院における電子クリティカルパスの基本事項

クリティカルパスは医療チームが協働で作りに上げた施設としての最良の治療を形にしたものである。クリティカルパスには EBM (Evidence Based Medicine) の促進、業務の効率化、チーム医療の推進などのメリットがあり、それらにより医療の標準化が図れ、医療の質の向上、さらに医療安全につながる。言い換えると、医療安全の向上にはクリティカルパスが有用であるともいえる。

香川労災病院（以下、当院）では、1999 年から紙ベースでクリティカルパスの運用をはじめ、2004 年のオーダーエントリーシステム導入時に電子クリティカルパスへと移行した。2007 年の電子カルテ導入に伴い、単に医師が指示を出すツールとしてではなく、全ての日常業務を円滑に遂行でき、医療者に配慮した構築とすることを前提条件として、基本事項を 1) 各部門の情報を反映できる、2) 全ての業務ができる、3) 個性への対応ができる、4) チーム医療の活動を反映できる、5) 患者への情報提供が容易である、6) アウトカム評価で質を検証できる、7) コスト計算が可能である、と設定し、ベンダーとともに医療者が使いやすい電子クリティカルパスへと少しずつ機能を改善してきた<sup>2)~5)</sup>。

## 2. 当院における電子クリティカルパスの実際と情報閲覧に関する問題点

当院の電子クリティカルパスはオーバービューを基本とし、診療記録やバイタルサインの閲覧や入力、指示の入力等が容易にできるだけでなく、クリティカルパス画面の右上のダイアログから 47 の機能呼び出すことで検査結果や放射線画像、エコーの動画などあらゆる情報を得ることができ、日常業務に支障がない設定としてい

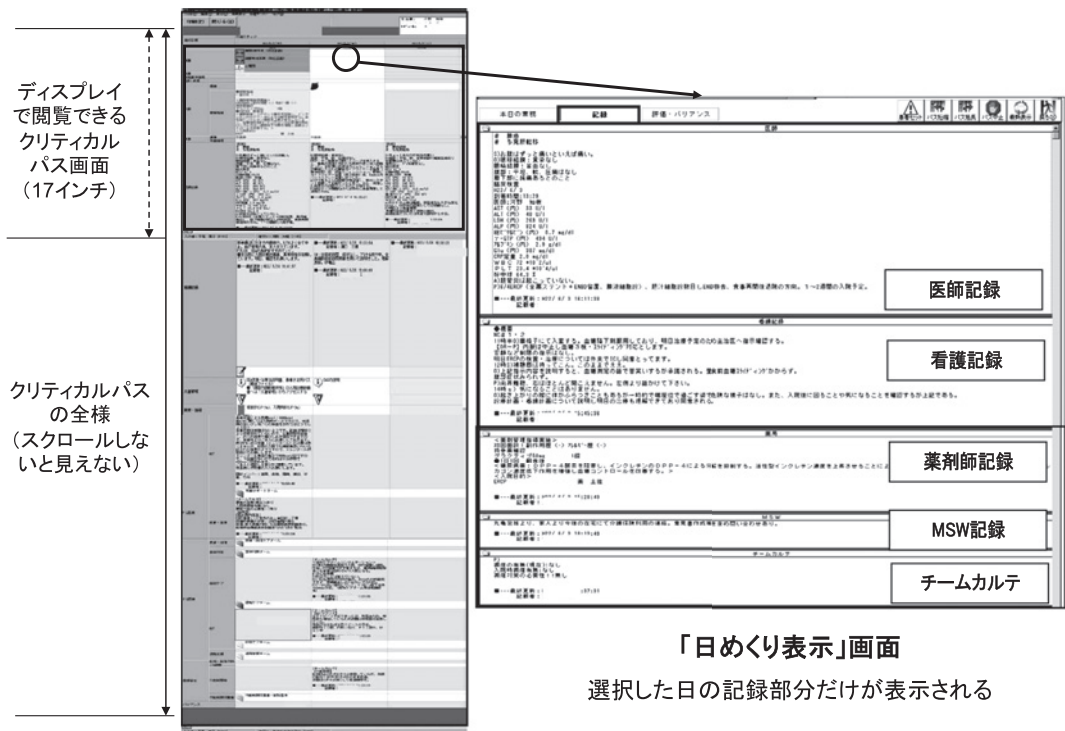


電子クリティカルパス画面

47の呼び出し機能

画面右上のダイアログから47項目の機能呼び出すことが可能

図1 電子クリティカルパス画面



「日めくり表示」画面

選択した日の記録部分だけが表示される

図2 「日めくり表示」

る(図1)<sup>2)~5)</sup>。しかし、運用の中で、オーバービューでクリティカルパス画面から様々な情報を得ることができるメリットがある反面、情報量が多いため画面をスクロールしないと記録全体を閲覧できないという問題点があった。また、チーム活動での記録が一般的な記録に埋没し

てしまい、チーム医療の情報伝達が不十分となることが危惧された。そこで、チーム医療に対応し効率のよい情報共有を行うため、「日めくり表示」と「チームカルテ」の新機能を設定した。

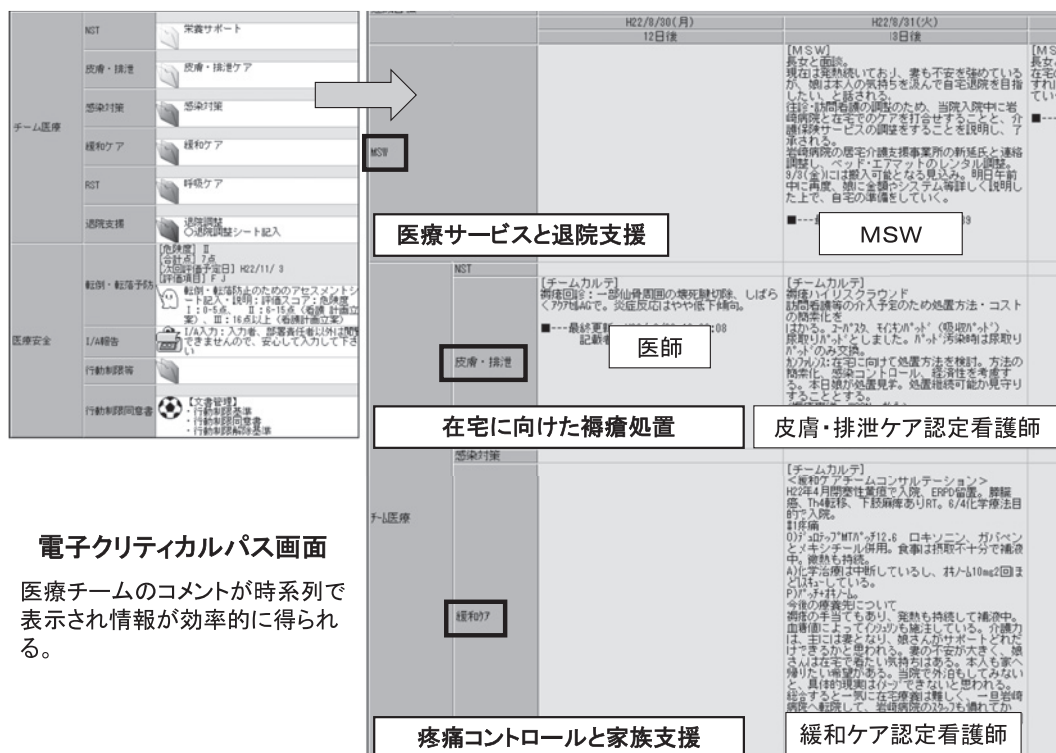


図3 「チームカルテ」

### 3. 「日めくり表示」と「チームカルテ」の設定

「日めくり表示」とは、各職種による記録の閲覧を容易にするものである。クリティカルパスマスターに表示させたい記録の種別を設定し、適用したクリティカルパスの日付を右クリックし「日めくり表示」を選択すると設定した記録部分だけが表示される。これにより、職種間の情報共有の確実性と効率化が図れた(図2)。

通常、電子カルテでは、診療記録を記載する際に職種により権限が設定されるが、「チームカルテ」とは権限設定をせず多職種が共有し入力できるようにしたものである。当院では、NST(栄養サポートチーム)・ICT(感染管理チーム)・緩和ケア・褥瘡予防・がん化学療法・RST(呼吸ケアサポートチーム)・退院支援・医療安全など様々なチームが活動している。それら医療チームの活動内容の記録を「チームカルテ」として保存することで、電子カルテ画面にチーム活動だけを選択的に表示させることができる。従来の電子カルテでは過去の情報は画面をスクロールしなければ閲覧することができず、情報が埋没してしまうことがあった。そこで、電子クリティカルパスの縦項目にチーム医療の項目を設定し、電子クリティカルパス画面に医療チームの活動内容を時系列に反映するようにすることで患者の状態や全体像、経過、各々のチームの専門性をもった患者への医療内容を共有しやすくなった(図3)。図3の事例では、終末期患者の在宅に向けた各チームの支援が時系列で一目で把握できる。

### 4. 補完ツールとしての「関連ファイル」設定

クリティカルパスを円滑かつ効率的に運用するためには、医療を提供する上での手順や患者用クリティカルパス、パンフレット類等の補完ツールが必要となる。これまでは文書で印刷し保管していたものを使用していたが、クリティカルパスを使用するスタッフ全員が同じ補完ツールを共有でき、内容も確認できるように、電子クリティカルパスに文書類を添付できる「関連ファイル」の設定を行った。「関連ファイル」とは、電子クリティカルパス画面で①(informationのi)のアイコンで表示されたセルに関連する文書データをリンクすることを可能とする設定であり、患者用クリティカルパス、疾患説明用紙、手順書、アルゴリズムなどがクリティカルパス画面で容易に閲覧でき、印刷も可能である(図4)。これにより、1)患者・家族へのインフォームド・コンセントの充実、2)患者参画の推進、3)EBMの裏づけ、4)スタッフ教育、5)文書管理の効率化(データ一元管理による標準化、最新情報の共有化、管理スペース不要)などの効果があった。その他、電子クリティカルパスの画面は、電子カルテの記録に影響しないため、詳細な注意事項等を記載することができ、共通認識での業務遂行が容易となる。

### 結 語

今回、チーム医療の推進するために効率的な情報共有の機能として「日めくり表示」「チームカルテ」を設定し、

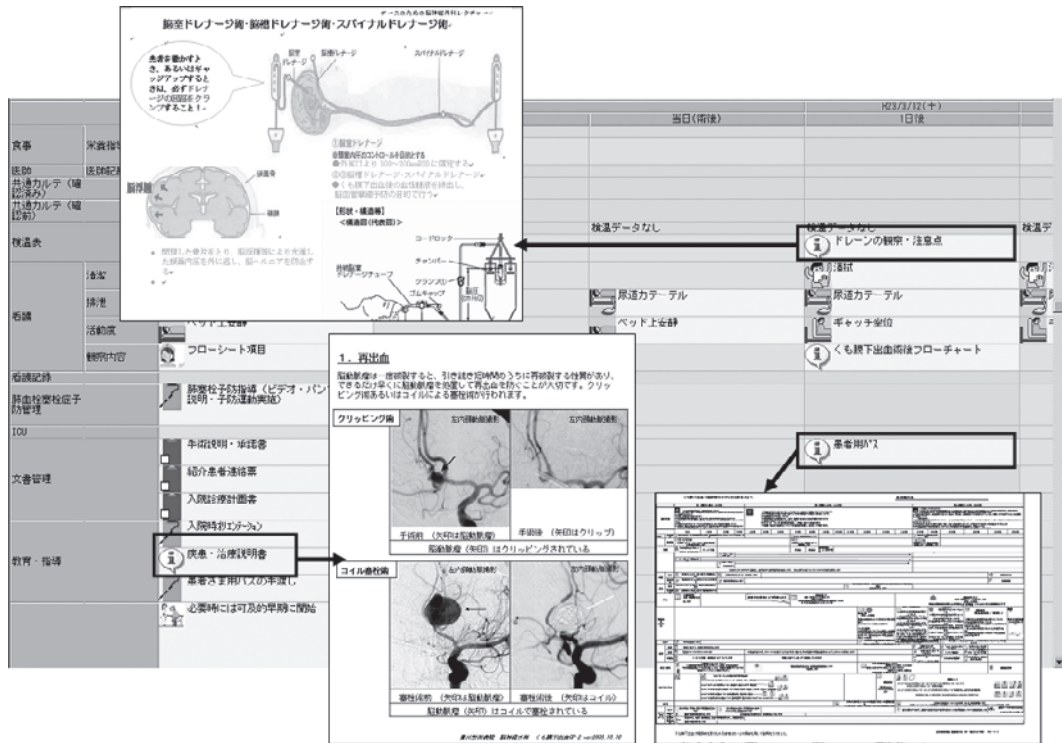


図4 「関連ファイル」セルに文書類をリンクさせており印刷も可能

補完ツールとしての文書類を管理する「関連ファイル」の設定などのクリティカルパスシステムの改善を行った。電子カルテシステムの改善は医療の質や医療安全にも大きな影響を与えるものである。今後も電子カルテシステムの継続的な改善が必要である。

本論文の骨子は第58回日本職業・災害医学会学術大会のシンポジウムで発表したものである。

文 献

- 1) 野村順子：解説「チーム医療の推進に関する検討会」報告書の概要，看護 vol.62 No.9. 日本看護協会出版会，2010，pp 40—43.
- 2) 藤本俊一郎：医療者に配慮した電子クリティカルパス。日本医療マネジメント学会雑誌 8：543—548, 2008.
- 3) 藤本俊一郎：電子クリティカルパス，香川労災病院の取

り組み，クリティカルパス最近の進歩 2008. 日本医療マネジメント学会編。東京，じほう，2008，pp 265—276.

- 4) 藤本俊一郎，神野正博，杉本末子，開原成允：電子カルテと標準化。日本病院会雑誌 55 (12)：1396—1434, 2008.
- 5) 藤本俊一郎：オーダリングとクリティカルパス，一クリティカルパスより後にオーダリングが導入された施設での取り組み一。日本医療マネジメント学会雑誌 7：284—287, 2006.

別刷請求先 〒763-8502 香川県丸亀市城東町 3-3-1  
香川労災病院  
平井 有美

Reprint request:

Yumi Hirai  
Japan Labour Health and Welfare Organization, Kagawa Rosai Hospital, 3-3-1, Joto-cho, Marugame-shi, Kagawa, 763-8502, Japan

## The System Configuration and Safe Medical Safety for Team Health Care

Yumi Hirai

Japan Labour Health and Welfare Organization, Kagawa Rosai Hospital

In Kagawa Rosai Hospital, the construction and the improvement of an electronic critical path system which could carry out daily work smoothly on the occasion of the order entry system was introduced in 2004, and the electronic chart was introduced in 2007. In order to promote team health care, information sharing about a patient between teams becomes important. It had set up so that various information could be acquired on the basis of an overview electric critical path. But on the other hand, it had the problem of the whole record could not be perused without scrolling the screen. In order to promote team health care this time, a set up of a “team clinical recording” and “block-calender labeling” was performed. Moreover, the “related file” which attaches documentation share between medical persons, fullness of informed consent with patient and a family, staff education, etc. Improvement of a critical path system leads not only to the improvement in quality of medicine but improvement in medical safety. These contents of setting and practical employment were reported.

(JJOMT, 59: 205—209, 2011)